

No. 730

明治100年の幕あけ

—東京・愛知—

今年公式の「明治百年」とあつて早くもさまざまな催しが行なわれています。

新春恒例の東京消防出ぞめ式が、1月6日晴海で行なわれました。今年の呼びものは明治百年にちなんだパレード、「消防の移り変り」。江戸時代の模擬商店での火災消火演習など昔の消防の模様を披露しました。

また、愛知県犬山の明治村では、当時の建物にかこまれた庭園で、羽根つきや竹馬遊びが催され、古きよき時代を偲ばせました。

メキシコへの明暗

—静岡・東京—

今年メキシコオリンピック年である。

各競技の候補選手たちは出場資格予選を前にトレーニングに懸命である。金メダル8コを目標にするレスリング選手団は今年も正月を返上して静岡県伊豆長岡で猛烈な訓練を受けている。一に根性、二にも根性とこの根性強化合宿にはなにがなんでも金メダルをとるんだという選手たちの異様に緊迫した空気がみなぎっている。

こうしたオリンピック・イヤーの明けたばかりの9日、マラソンの円谷選手が自殺した。4年前の東京オリンピックで国立競技場にただ一本の日の丸をあげた栄光の男がなぜ死ななければならなかったのか。円谷選手を死に追いやったものは何だったのか。真面目で責任感の強かった円谷。傷つき再起への道を踏出したばかりのランナーに、周囲の期待があまりにも大きすぎなかったか、そしてそこにはオリンピック至上主義がひそんでいたのではないか。